

Glocal Tenri



11

月刊 グローカル天理 Monthly Bulletin Vol.23 No.11 November 2022

天理大学 おやさと研究所 Oyasato Institute for the Study of Religion, Tenri University

CONTENTS

- ・巻頭言
習俗・習慣との共存
／永尾 教昭 1
 - ・天理教の異文化伝道と「文化」の「翻訳」
(2)
本連載における「翻訳」について①
／加藤 匡人 2
 - ・台湾の社会と文化—天理教伝道史と災害民族誌 (10)
戦前の婦人会本部による台湾伝道
／山西 弘朗 3
 - ・社会福祉からみる現代社会—天理教の社会福祉活動に向けて— (5)
社会福祉は、どのようにして生まれたのか—福祉国家体制への歩み—
／深谷 弘和 4
 - ・現代宗教と女性 (最終回)
フェミニズムは終わらない
／金子 珠理 5
 - ・コロンビアへの扉—ラテンアメリカの価値観と教えの伝播— (24)
6. コロンビアの日常4：家族の実態その2
／清水 直太郎 6
 - ・天理参考館から (29)
スポーツの歴史と文化 (6)「歩く」
／幡鎌 真理 7
 - ・おやさと研究所ニュース 8
- 第 81 回日本宗教学会学術大会に参加・発表／第 351 回研究報告会(9月 28 日)
／2022 年度公開教学講座のご案内

巻頭言

習俗・習慣との共存

おやさと研究所長 永尾教昭 Noriaki Nagao

天理教に限らず、どの宗教もその宗教が誕生した国や文明圏以外のところに伝道していくためには、当然その地域の既存の宗教との関わりを調整しなくてはならない。

既存のものを淘汰、克服していくという考え方がある。しかし、これは容易なことではないし、場合によっては、宗教間で争いが起こることさえある。平和を求めべき宗教同士が争いを起こすほど、矛盾したことはない。

世界には、いわば一種の習慣として人々の間に定着している宗教もある。たとえば日本における仏教や神道がそれに当たるのではない。彼岸や盆に先祖の墓参りに行く、初日の出を拝む。あるいは食事の前に「いただきます」と手を合わせる。そういった事柄をほとんどの日本人は、宗教的な実践行為と意識してやっているわけではなく、習慣として自然に行っている。

ヨーロッパにおけるキリスト教も似たような面があると思う。クリスマスに家族が集まりケーキを食べ、子供にプレゼントを渡す。復活祭の休暇を楽しむ。もちろん、熱心なクリスチャンはそれぞれその行事の意義を認識すると思うが、市井の多くの人々にとってこれらは習慣である。

もっともイスラム圏などは、マッカに拝礼し豚肉を食することを避け、女性は顔や体を覆うものを身につける。これらを、イスラムの教えであると日々認識しつつ実行している人が多いのではない。それだけイスラム教の場合は、信仰が生きて生きていると言えるかもしれない。

ある宗教が異文化圏に進出するに際して、そういったその地域固有の習慣を決して否定する必要はないと思う。それらと共存して、天理教なら天理教を信仰してもらいように導けば良い、と言うか、天理教を信仰するに際してその習俗・習慣をやめさせようとするところには無理が

あるだろう。すでに見たように、ブラジルでは生長の家などの日系宗教の信者が多くいるが、彼らはキリスト教を捨ててそれに入信したわけではない。

『天理教教典』に以下のようにくだりがある。「或る年の秋祭の日に、村の娘たちが、今日を晴れと着飾つて、嬉々としていのに、娘盛のこかんは、晴着はおろか着更さえもなくて、半分壊れた土堀のかげから、道行く渡御を眺めていたこともある」(47 頁)。こかんとは、中山みき教祖の末娘である。これは 1838 年に教祖が立教して 20 年ほどのち、貧窮の中を家族で通っていた頃の話だ。

この記述からわかることは、こかんが村祭りに行けなかったのは貧しさの中で着ていく晴れ着がなかったからであって、母である教祖が「他宗教の祭りには行くな」と言ったからではないということだ。つまり、晴れ着があったら村祭りに出かけたのだ。また教祖の子供は、長女まさを除いて、いずれも教祖より先に亡くなっているが、その葬儀は仏式であったのではない。確かに、天理教がまだ宗教としてきちんと組織される以前で、結婚式や葬儀といった各儀式もまだ整備されていなかったからやむを得ない面もあるが、そもそも教祖は天理教の信仰を広めることは、日本の既存の習俗・習慣をすべて否定することではないと考えていたのではない。

フランスには、フランス人教会長を戴く「天理教ポルドー教会」が存在するが、おそらくその信者たちは、普通にクリスマスを祝い、西暦を使い、11月2日の「死者の日」には墓参りに行くかもしれない。そういった、宗教から生まれた各文明圏固有の習俗・習慣を、その宗教の否定とともに排斥していけばおそらく海外布教は頓挫するだろう。